

414
A 855
2

海軍大臣侯爵西郷從道

右様 御手紙 宜敷

右様 此

書許
 公之洞
 日
 戦
 迹
 灣事

(Faint vertical text on the left edge of the paper)



114
A 855
2



極秘

牒報第四百號

明治三十一年十月一日

清國政變觀測

宗方小太郎報告

海軍軍令部第三局

別紙、清國政脈系統ニシテ皇帝派ト西太后派ト關係ヲ明クカシ
 以テ今回事變、由來スル所ヲ討求スル、一助ニ供ス
 皇帝派ニテハ慶親王ヲ中心トシ前戶部尚書翁同龢、孔部尚書許
 應駟等操縱、向ニ當リ六部衙門、同志ヲ提ケ地方、重官張之洞、
 陳寶箴以下數人、聲援ヲ資リ以テ西太后派ト對峙セリ
 西太后派ニテハ恭親王ヲ戴ス(親王系統上ニテ云ハハ太后派ニ屬スル近頃、西派)日
 清戰役以前、李鴻章專之、統率シ内外、政務ヲ料理シシニ戰
 敗靖和、後ニ至リテ其勢力頓ニ大挫折シ來リ、太后、氣勢日、逐々
 衰、殆ニト皇帝派、為ニ踰踐セラルニ至リ然レモ昨年、未膠州灣事
 變、外ニ起リ、露國、旅順、大連、占領シ、佛、廣州灣、要求、英、

Handwritten notes on a separate sheet of paper, including a large signature and some illegible text.

威海衛借入等事相接連して起り舉國震動局面一變要路
鉅官束手無策時方太后派勢力漸復活し来り其困
憊を棄て之を壓倒し張蔭桓出で動力の起るを為り李鴻章
以下先輩を凌駕し内ハ廖壽恒孫家鼐等と深々相結比し無
き満人有力者ヲ聯し外ハ時務家トシテ當世ニ知ラレル半官半民ノ
康有為ヲ提内外合力以テ諸般改革ニ從事し尊ラ太后ノ意思
ヲ奉戴し皇帝派ヲ斫鋤シテ欲シ先ツ帝股肱第一タル翁同龢ノ官
罷ヲ尋テ許應駁ヲ斥テ懷塔布以下礼部ノ總更迭ヲ断行シ以テ
自皇帝ノ羽翼ヲ斲帝ヲ孤立無援ノ地ニ陷ラシメタリ(以上翁同龢以下官
ヲ免るは自太后ヨリ
行ヒシトクモナリ)而シテ太后派ノ勢力ヲ蒸々日上皇帝太后ノ命ヲ奉シ
テ改革ニ関スル上諭ヲ發シ施設經營マレ所ノモノ少ク是ヲ以テ世人皆
皇帝ヲ目シテ革新党ノ中心ト為シテ疑ハズ要スルニ是レ只ク皮相ノ觀察
ニシテ清国内外政權早ク已ニ皇太后ノ掌中ニ歸シテ毫モ自皇帝ノ手

ニ存ズ帝ハ徒ラニ虚器ヲ權シテ太后ノ命令ヲ傳達スル人トシテ過キク
ルヲ知ラザルナリ然リ而シテ太后派ヨリ出ツル所ノ改革案ハ張蔭桓ノ手
ニ成ルガ如シト虽ニ其案ハ皆康有為ノ方寸ヨリ出テ張ハ之ヲ潤色シテ
同僚ノ賛成ヲ求メ皇太后ニ上リ皇太后ヨリ更ニ皇帝ニ命シテ実行
セシメタリ

今回ノ政變ノ起因ノ付テ未ダ確報ニ接セズ虽ニ北京發ノ電報ヲ以テ
事實ナリトセバ満人ノ反抗之が主因トル者如シ然ラバ満人ノ何ヲ以テ之ニ
反抗シ且ツ其ノ首領ノ何人ナルマテ判断スルノ價值有ルヲ信ズ愚意以
テ今今日時勢ノ處ニ滿州人ト虽ニ國政改良ノ必要ヲ感ズカレニ非ズ
只ク張蔭桓康有為等同僚ヲ無視シ專断自肆急激ノ改革ヲ
決行シテ反抗シ者ナリ語ヲ換テ之ヲ言フニ滿漢人種感情ノ衝突ナ
リ果シテ然ラバ皇太后何國ヲ一朝反抗起ルニ及ニテ其腹心タル張蔭
康有為等ヲ廢リシサレ乎又滿州派ノ何ヲ以テ太后迫リ皇帝ヲ幽閉ノ

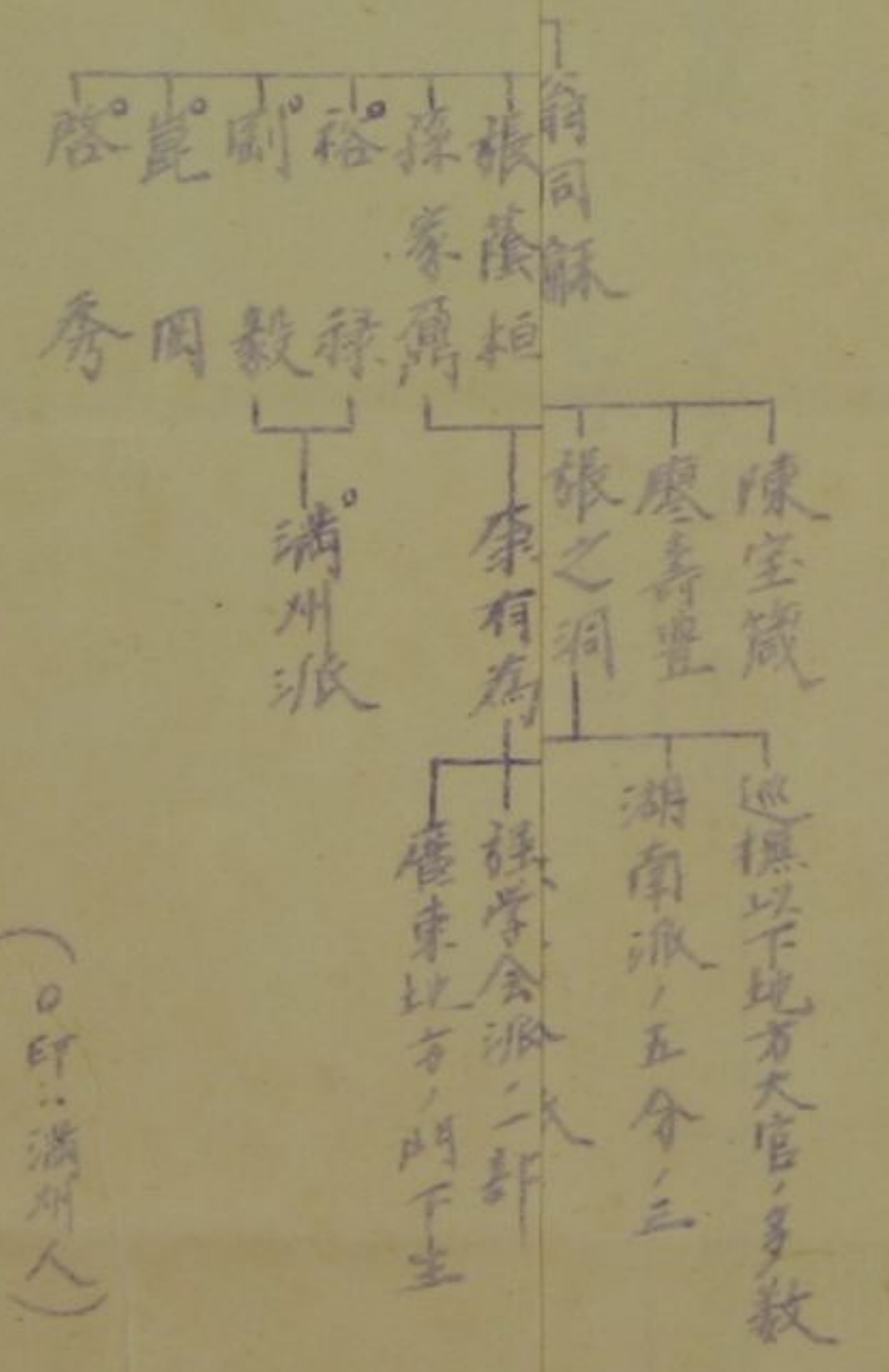
地措リ至リ予是二個、疑問ナリ思意以為ラク太后、張、康、
棄ラシハ一時已ニ得シ棄ル也何ヤ滿州、愛親覺羅氏ノ故
卿、滿州出身、大臣ニ宗室世臣サカバ故輩相聯合シテ張、康、
二氏、專横ヲ許發シ急激ノ改革ニ反抗ス太后、機敏ニ何ヤ張、康、
二人、為ニ其覺羅氏ノ根本タル滿州諸大臣ノ感情ヲ害シ且ツ之ヲ
擧ゲテ敵ト為ス思フ學バンヤ必ダ其輕重本末ヲ度リ利害ノ分ル、
所ヲ審シ一時、權宜上滿人ニ對シテ張、康二人ヲ棄テテナリ而シテ其
皇帝幽閉ノ事、滿人反抗ヲ利用シテ改革ノ責ヲ皇帝ニ歸シ、其
皆已レヨリ出テシモ遂ニ平昔ノ扁願タル帝位聽政ヲ再演セシモノナリ
蓋シ今帝ヲ非擯シテ自ヲ專ラシメント欲スルハ皇太后、素王ナレバ
嚮テ毒殺云々ノ說實ニ其由来スル所有ルナリ
抑モ皇太后、清國ニ放ル北京ニ在ル滿漢一部ノ大官ヲ除ク外全國
官民ノ望ヲ歎人ニ屬ス者メシ若シ帝位聽政ノ基ヲ開クに至ラズ天

下ノ人心必ズ是ヨリ瓦解シ紛乱百出終ニ收拾奇ク滿清ノ滅亡是
ヲ指顧ノ間ニ在ラン今帝凡庸ニシテ為ス有ル能ハズ且其親政
名義ヲ以テ天下ニ臨シ尚以テ紀綱ヲ維持スルニ足ルナリ昨日東京電
報ハ皇帝、親政復旧ノ事ヲ傳フ之ヲ果シテ事實タラシメバ各省
總督巡撫以下上奏事ヲ言フノ資格有ル大官等交モ皇太后
帝位、非テ諫爭セルニ固ル乎

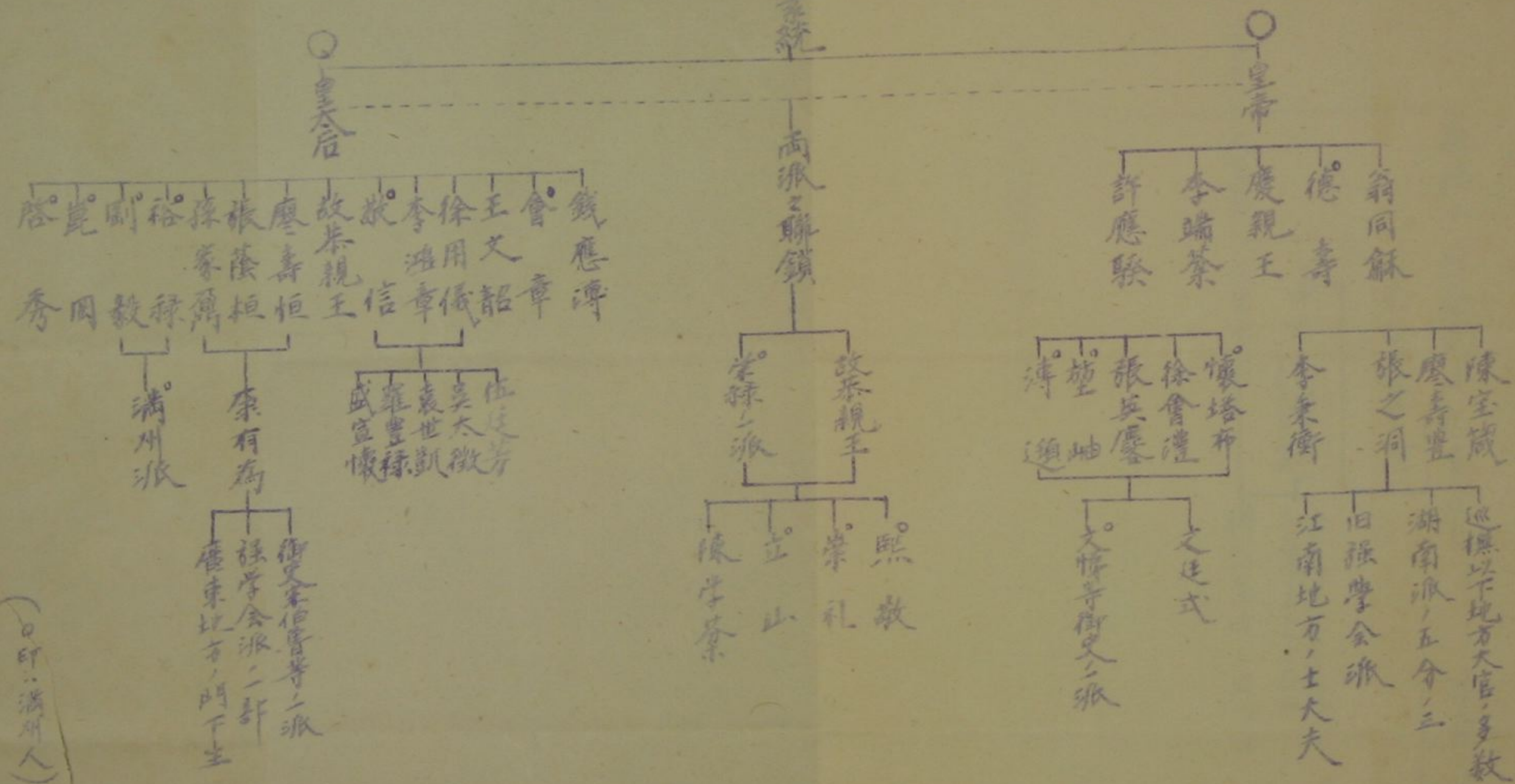
若シ今回ノ政変ヲシテ搖動已マザラシムバ之外ニシテ、英露ニ兩國互ニ
其間ニ干渉ヲ試ミ之ヲ内ニシテハ南部、各省或ハ旗ヲ揚ギ起シ者
ヲラシ形勢決シテ容易ナレニテナルナリ而シテ清國ノ革新事業之が
為ニ一頓挫ヲ招キタリト雖モ彼對日本ノ感情ハ固ニ依リテ渝ラレバ可
之ヲ約言スル急進派倒シテ漸進派之ニ代リシニ

附言 兩派、軋轢由來最モ久シク明治廿八年ノ半ヨリ漸ク其
勢度ヲ高シ錢ヲ決別收メトセシモ、後回ルルヲ知ラズ類

恭親王在... 老成自重中亞派首領現任直隸
 總督榮祿等一類... 隱然兩派之連鎖、為其
 均漸、他持... 今日之至リシガ不幸ニシテ親王本年六月
 以... 皇太后亦... 他... 忌憚... 所以...
 其... 遂行... 今日之政變ヲ見... 至リ



清國政體系統



今帝及西太后血統

